

# ライトアート in 折立



折立市民センター  
ホームページ

## 【事業概要】

令和元年度に折立小学校6年生の授業「町の幸福論」で発表された小学生のアイデアから、地域活性化を目的として、折立公園で光をモチーフにしたイベント「ライトアート in 折立」が初めて開催されました。今年度3回目を迎え、折立地域の冬の風物詩として定着しつつあります。

## 【今年度の活動】

令和3年度は、7月から「ライトアート in 折立運営委員会」が立ち上がり、12月のイベントに向けた準備が始まりました。会場の装飾にはこれまでのペットボトルランタン・イルミネーションライトでの装飾に加え、新たに「ピカボード（LED



▲ピカボード作成と点灯の様子

発光ボード）」の制作に挑戦しました。折立地域に関するキャラクターなどを描いた作品の他、開校50周年の節目の年を迎えた折立小学校の全校児童が制作に携わりました。

また、折立中学校の生徒が企画員としてミニランタン作りワークショップとクイズラリーを行い、イベントをさらに盛り上げました。



▲中学生実行委員も活躍

## 【成果と課題】

イベント当日は、昨年を大幅に超える約1,200人の来場者がありました。家族と訪れた小学生は自分たちが制作したピカボードをバックに記念撮影をしたり、中学生企画のワークショップやクイズラリーにも大勢の子も参加したりと、会場に至る所で交流する様子が見られました。

回を増すごとに新たな企画や連携が生まれ、イベントの規模も大きくなっています。が、会場や駐車場のスペースに限りがあり、

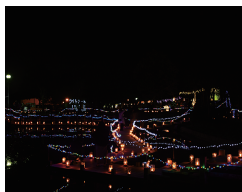
今後は警備を強化するなど、より安全面への配慮が必要です。

また、地域住民による運営委員会のメンバーは高齢者が多く、イベントの準備や夜間の後片付けに体力的な不安もあるため、若い世代の住民の参加を促していくことが急務となっています。

## 【今後の展望や期待】

今回、折立小学校と連携し、ピカボード制作に全校を挙げて取り組んだことや、中学生企画員の活躍の様子を、小学校の校内放送や中学校の集会以て発表したことにより、子ども達の事業に対する興味・関心が高まりました。

今後も学校との連携を継続し、子どものアイデアを地域の大人が具現化していく流れを作り、幅広い年代の地域住民が一体となって取り組んでいきたいと思えます。



▲会場内のランタンやイルミネーション装飾

折立市民センター

☎ 226-11226